

各 位

唐津農林事務所東松浦農業振興センター長

稲作情報第 1 号 (普通期水稻)

1. 気象概要 (アメダス:唐津地点)

月	半旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		降水量 (mm)		日照時間 (h)	
		平年	R6	平年	R6	平年	R6	平年	R6	平年	R6
5	1	17.4	17.8	22.4	21.9	12.8	14.1	20.1	4.5	35.5	32.5
	2	18.1	17.1	23.1	22.2	13.6	13.4	24.4	11.0	35.0	20.4
	3	18.8	18.5	23.7	23.5	14.3	13.4	26.1	37.5	35.1	40.3
	4	19.4	19.3	24.3	26.4	15.0	12.9	22.2	0.5	35.5	59.0
	5	19.9	20.2	24.8	25.4	15.7	17.0	17.8	0.0	34.0	28.2
	6	20.4	19.7	25.0	25.2	16.5	14.9	18.5	87.5	37.1	30.3
6	1	20.9	19.4	25.2	24.8	17.3	15.5	18.2	0.0	27.3	47.5
	2	21.4	21.5	25.4	26.6	18.2	18.4	27.2	20.0	24.5	21.7
	3	21.9	24.1	25.7	30.1	19.0	20.0	40.5	0.0	22.3	47.5
	4	22.4	22.9	26.1	28.6	19.6	19.1	54.5	102.0	20.6	27.5
	5	23.0	24.3	26.6	27.3	20.4	21.6	65.1	39.0	17.8	8.3
	6	23.9	23.8	27.3	26.2	21.3	21.9	73.6	74.5	14.8	0.5

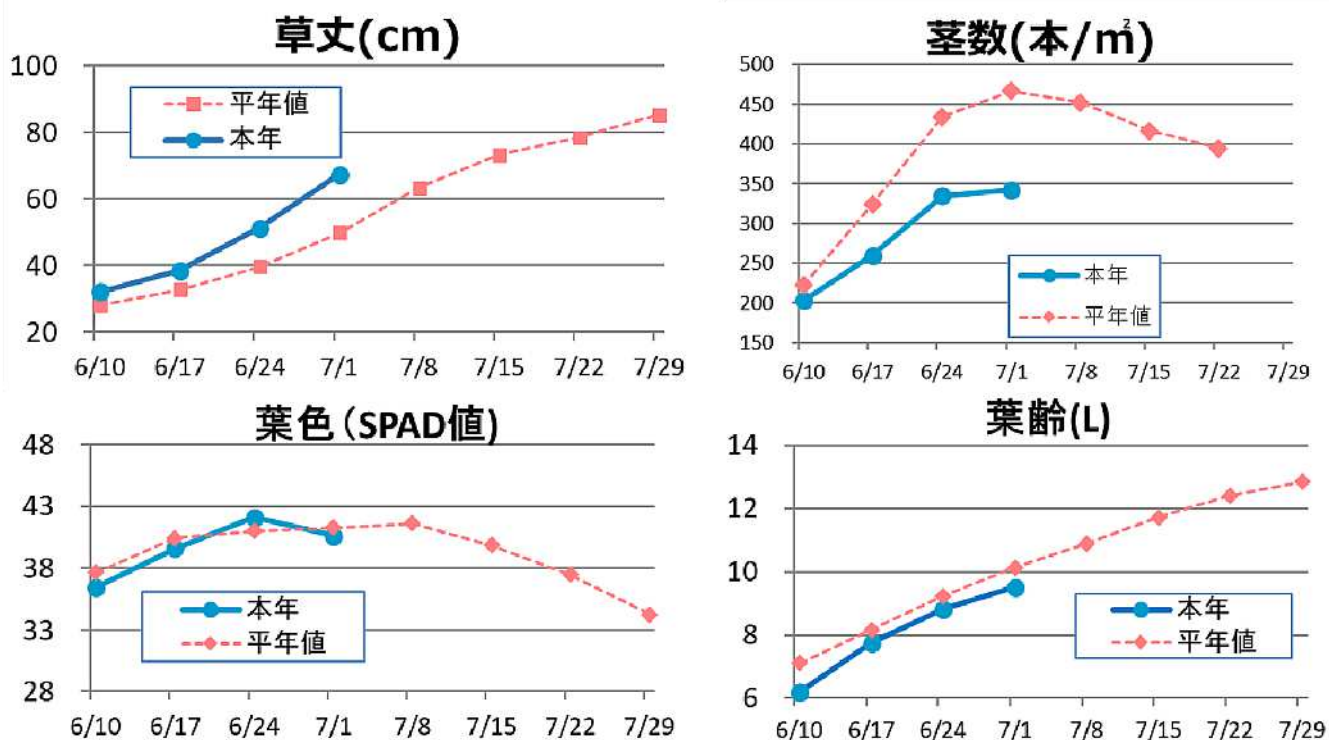
4 月から 5 月中旬にかけてまとまった降雨があり、山間地の移植はスムーズに進んだ。梅雨入りは 6 月 17 日で、平年より 13 日遅かった。そのため、平年と比べて 6 月 3~4 半旬の前半の気温は高く、降水量は少なく、日照時間は長くなった。対して梅雨入り後の 6 月 4 半旬の後半~6 半旬には曇天が続き、日照時間が短かった。

2. 生育状況 (調査日:7 月 3 日)

項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概要
コシヒカリ 唐津市厳木 町天川 5/14 移植 標高 650m	本年値	67.4	342	9.5	40.6	・草丈は平年に比べ高い ・茎数は平年より少ない ・出葉は平年より遅い ・葉色は平年より濃い
	平年値	49.9	467	10.1	39.8	
	平年比	135	73	-0.6	+0.8	

・作況ほの「コシヒカリ」は、5 月 14 日に移植された。6 月 5~6 半旬にかけて曇天が続いたため、徒長気味となり、草丈が高く、茎数も少ない。これまでのところいもち病やウンカなどの病害虫は発生していない。

令和6年産天川コシヒカリ生育の推移



項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概要
夢しずく 唐津市相知町 伊岐佐 6/12 移植 標高 70m	本年値	35.2	116	7.4	39.8	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は平年に比べ高い ・茎数は平年より少ない ・出葉は平年より早い ・葉色は平年より濃い
	平年値	29.6	127	5.5	34.1	
	平年比	119	91	+1.9	+5.7	

・作況ほの「夢しずく」は、6月12日に移植された。6月5～6半旬にかけて曇天が続いたため、徒長気味となり、草丈が高く、茎数も少ない。

3. 今後の管理

①栽培管理(山間早植)

- ・唐津市のコシヒカリの移植時期は4月末～5月末であり生育ステージは移植時期で異なる。現在の生育ステージは有効分げつ決定期～幼穂形成始期となるため、生育ステージに応じた管理を行う。
- ・5月上旬までに移植された圃場では穂肥の時期となるので、次表に基づいて穂肥診断を行い穂肥を施用する。
- ・なお、特栽コシヒカリでナタネペレットを施用する場合は窒素肥効の発現に時間がかかるので幼穂長が1～2mm確認できた段階で穂肥診断を行い穂肥を施用する
- ・今年は葉色が濃い圃場が多いため、葉色が薄くならない圃場では穂肥の施用量を遅らせたり、時期を遅らせるなど対応する。

《表1 コシヒカリ(一般栽培)の穂肥診断基準》

	葉色		施用時期		穂肥施用量
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	窒素成分 kg/10a
生育不足	2.5 以下	28>	25~23 日	1~2mm	2.0
標準	2.5-3.0	31	18~16	1.5~2.5cm	2.0
濃い	3.0-3.5	34	15	2.5cm	1.0
過剰	3.5 以上	35<		施用しない	

※第3葉身長(出穂前 22~18 日ごろの最上展開葉)が 42cm 以上、または第5節間長が 3cm 以上の場合、倒伏が懸念されるので穂肥は施用しない。

《表2 コシヒカリ(特別栽培)の穂肥診断基準》

	群落葉色	穂肥時期		穂肥施肥量
		出穂前	幼穂長	10a 当たり
なたねペレット	3.5 以下	25~23 日	1~2mm	20kg
	3.5 より濃い	—	—	施用しない

※施用資材・量等は、特裁の有無・地域により異なるので、地域の暦参照

- ・5月中旬以降に移植された圃場で有効茎が確保されたものは中干しに移行する。中干しは、おおむね草丈 50cm までを目処に実施する(有効茎数 20 本/株程度)。その後は間断灌水に移行する。

②栽培管理(平坦普通期)

移植後の圃場では分けつ確保やスクミリングガイ食害対策のため浅水管理とする。昨冬は暖冬傾向であり、越冬個体数が多い。田植え後しばらくしてから活動個体数が増えるためほ場の見回りをを行い、必要に応じて薬剤防除を行う。

降雨が連続すると見込まれる場合は水尻を開けて落水管理とする。

③病虫害・雑草管理(山間早植・平坦普通期共通)

- ・「ホタルイ、オモダカ、ノビエ類」の後発生が多い圃場では、中後期除草剤の対応に遅れないようににする。ただし、特裁申請している圃場では農薬成分カウント数に注意する。
- ・「いもち病」の病斑が見られる場合は、速やかに防除を行う。ただし、特別栽培認証制度を申請した産地では、農薬成分カウント数に注意する。
- ・6/23 と 7/1 ごろを中心としてトビウカ^カの飛来が確認された。発生予察情報を参考とし、ほ場の発生状況を確認して適期防除に努める。防除を行う場合には湛水をするとともに、株元まで薬剤が十分にかかるように散布する。
- ・6/24 を中心にコブノメイガ^ガの飛来が確認された。発生予察情報を参考とし、ほ場の発生状況を確認して適期防除に努める。



【花茎伸長したホタルイ(草丈 20cm)】



【バサグラン粒剤散布後】

イネウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況 (佐賀県農業技術防除センター情報を改編)

表1 イネウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況(2024年)

月	日	トビロウンカ					セジロウンカ					コブノメイガ							
		佐賀県		長崎県			佐賀県		長崎県			佐賀県		佐賀県				長崎県	
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	神埼市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市	諫早市
ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB	粘着トラップ (20W蛍光灯)	粘着トラップ (20W蛍光灯)	粘着トラップ (20W蛍光灯)	粘着トラップ (20W蛍光灯)	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB		
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	5日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	11日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	12日	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	15日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	17日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	19日	0	1	0	0	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	20日	0	3	0	0	0	0	10	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	21日	0	8	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	
	22日	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
	23日	0	24	0	0	0	25	66	8	1	1	0	0	0	0	0	10	0	
	24日	0	14	0	0	0	13	92	5	0	2	0	0	0	0	0	18	0	
	25日	0	1	0	0	0	0	148	1	0	0	0	0	0	0	3	25	3	
	26日	0	9	0	0	0	0	187	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	
	27日	0	3	0	0	0	2	8	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	
	28日	0	7	0	0	0	0	30	4	0	0	0	0	0	0	1	2	0	
	29日	0	4	0	0	0	3	31	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
	30日	0	13	0	2	0	15	5	0	3	0	0	0	0	0	0	2	0	
7月	1日	0	229		0	0	14	88		1	0						2		
	2日	0	41				0	97											
	3日	1					1												

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査(回収日で集計)。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。
 注2)コブノメイガ:神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。
 ※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。

トビイロウンカ発生予測（佐賀県農業技術防除センター情報を改編）

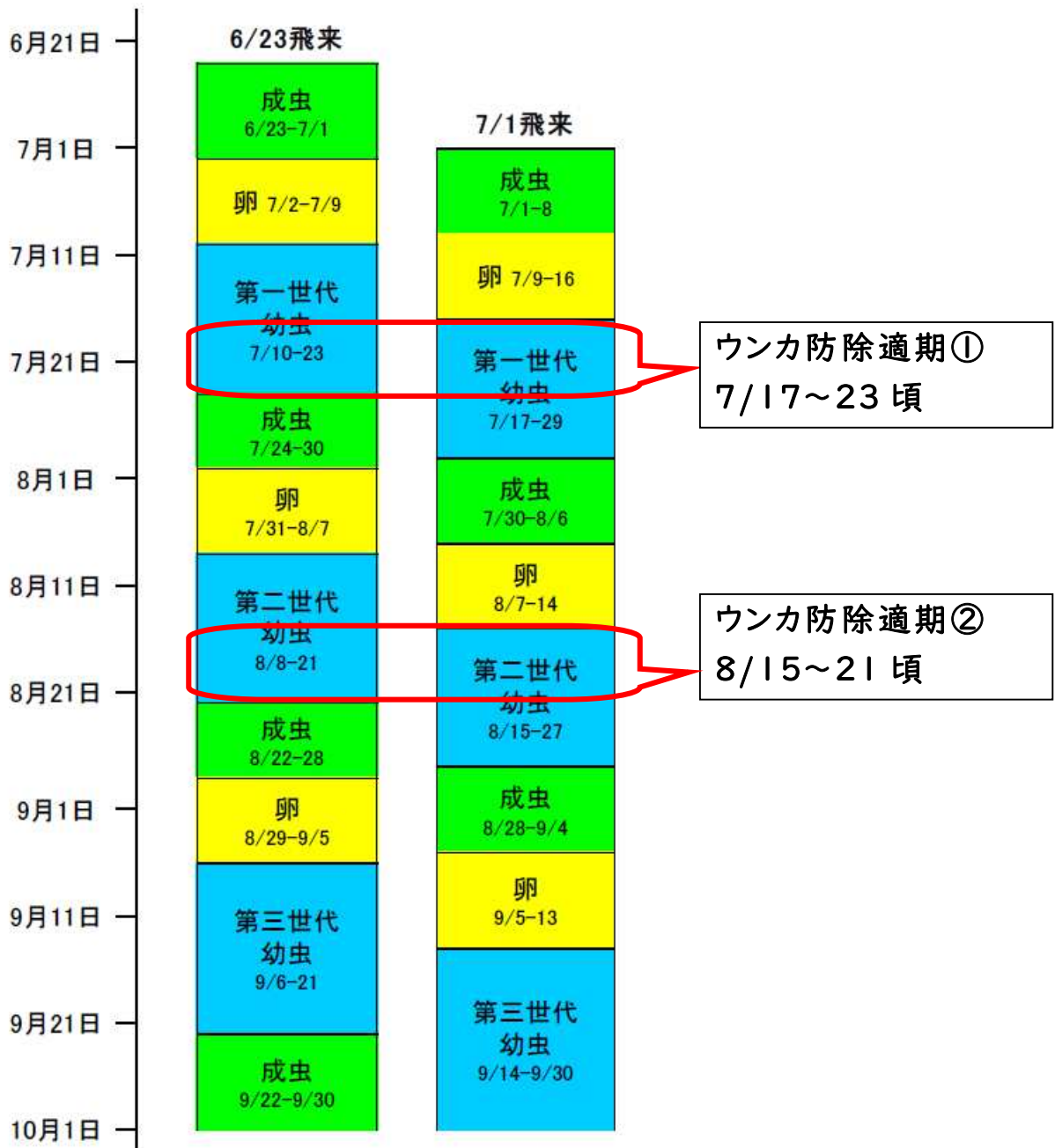


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測（第1版、2024年7月4日作成）

1. 6月23日～24日頃（図では6月23日）、7月1日～2日（図では7月1日）の飛来虫を起点とし、トビイロウンカの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ（7月4日以降は平年値）に基づき作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

コブノメイガ発生予測（佐賀県農業技術防除センター情報を改編）

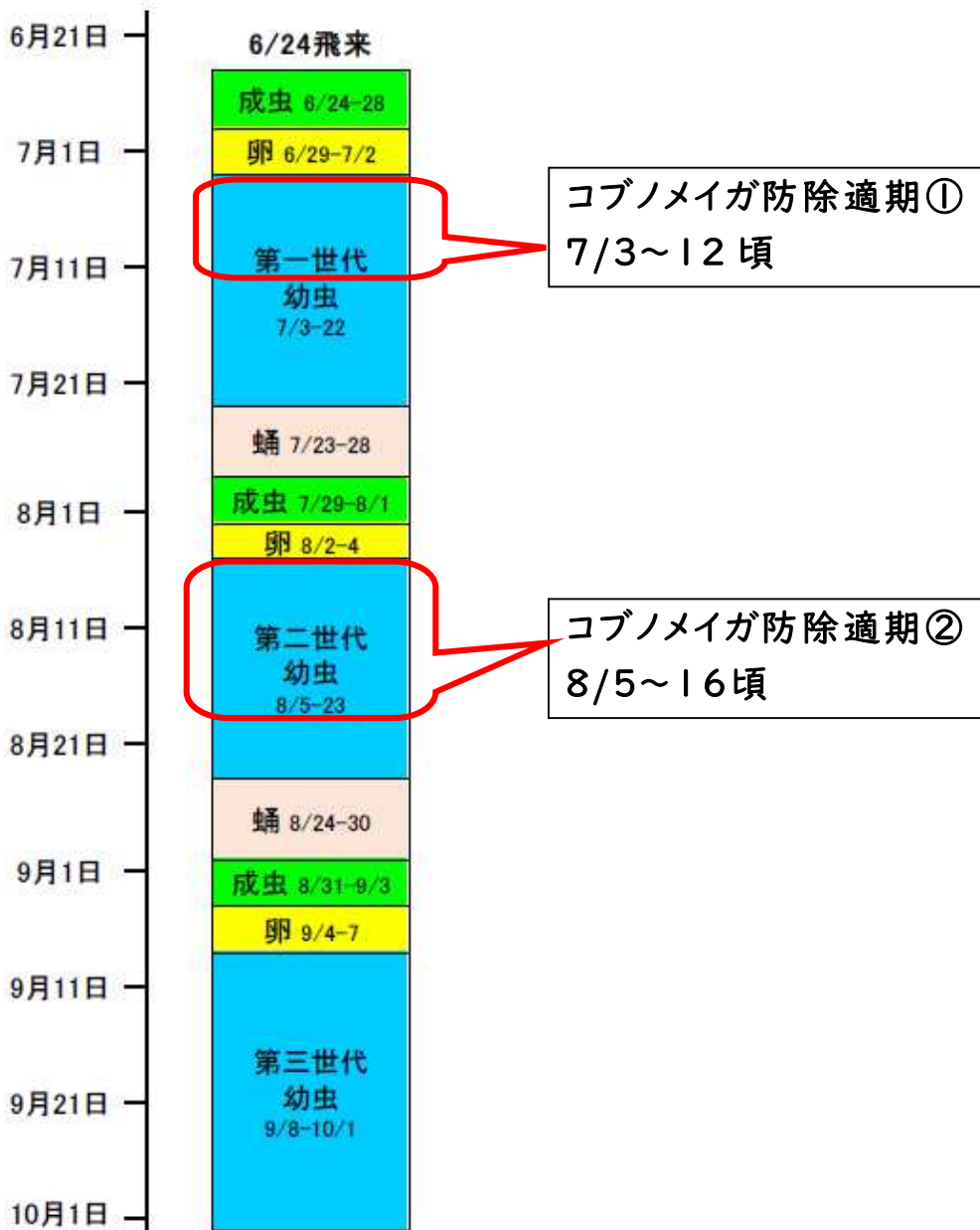


図2 コブノメイガ各世代の発生予測（第1版、2024年7月4日作成）

1. 6月24日～27日頃（図では6月24日）の飛来虫を起点とし、コブノメイガの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ（7月4日以降は平年値）に基づき作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

令和6年産 稲作期間気象図 アメダス観測値(唐津)

東松浦農業振興センター

